

# MUSEUM NEWS

2022.6 ▶ 2022.7

## シアトル → パリ 田中保とその時代

とき・7/16(土) ~ 10/2(日)

※ 会期中一部作品の展示替えがあります。  
前期:8/21(日)まで/後期:8/23(火)から

ところ・2階展示室

内容・田中保(1886-1941)は岩槻に生まれ、18歳で移民としてシアトルに渡ると、働きながら絵画を学び、画家としての活動を始めました。1920年にパリに移住した後は、サロン・ドートンヌなどの展覧会に出品を重ねて評価を高め、肖像画や裸婦像を中心に自らの芸術を開花させました。この展覧会では、当館のコレクションを中心に借用作品を交えて、田中の画業を振り返ります。あわせて田中が生活したシアトルの状況や、パリで同時期に活躍した美術家などを紹介し、田中の生涯と活動を時代とともに検証します。



田中保《黄色のドレス》  
1925-30(大正14-昭和5年)  
埼玉県立近代美術館蔵

観覧料・一般900円(720円)、大高生720円(580円)

※ ( )内は20名以上の団体料金  
※ 中学生以下と障害者手帳等をご提示の方(付き添い1名を含む)は無料  
※ 併せてMOMASコレクションもご覧いただけます。

### 《関連イベント》

実施が決まり次第、HP等でお知らせします。

## アーティスト・プロジェクト #2.06 高橋 銑

とき・7/16(土) ~ 10/2(日)

ところ・2階展示室D、地下1階センター・ホール

内容・近現代彫刻の保存・修復に従事することからキャリアをスタートしたアーティストの高橋銑は、作品の素材となる物質の変化や、物質が内包する時間に注目しながら、有限や消失、ときに死について表現してきました。本展示では、高橋のこれまでの関心に基づく最新作を交えたインスタレーション作品を発表します。

観覧料・無料

## MOMAS コレクション ( 収藏品展 )

### 2022年度 第1期

とき・4/30(土) ~ 8/28(日)

※ 会期中一部作品の展示替えがあります。  
前期:6/26(日)まで/後期:6/28(火)から

ところ・1階展示室

観覧料・一般200円(120円)、大高生100円(60円)

※ ( )内は20名以上の団体料金  
※ 中学生以下と障害者手帳等をご提示の方(付き添い1名を含む)は無料  
※ 埼玉県美術展覧会(県展)開催中(6/1(水)~6/23(木))は半額

### ◇セレクション 3/Ⅲ/Ⅲ

3という数字から、MOMASコレクションの名品をひもときます。

◇デザインで語るユートピア—1960-70年代イタリアから  
物質文化や生活環境が問い直されたイタリアデザイン界の動きを紹介します。

### ◇特集 孫雅由の小宇宙

哲学的な思索と共に制作を続けた孫雅由の思考と実践を探ります。



ヤン・トロープ《生命の守護神》1895年(前期展示)

※ 本紙記載の展覧会やイベントは、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、変更・中止となる場合があります。ご来館前に当館ホームページで最新情報をご確認ください。

埼玉県立近代美術館

所在地・〒330-0061 埼玉県さいたま市浦和区常盤9-30-1  
TEL・048-824-0111 FAX・048-824-0119 代表メール・p240111@pref.saitama.lg.jp  
URL・https://pref.spec.ed.jp/momas/  
開館時間・10:00~17:30(展示室への入場は17:00まで)  
休館日・月曜日(7/18は開館)、6/30・7/1 入館料・無料 観覧料・上記をご覧ください。

交通・JR京浜東北線 北浦和駅西口より徒歩3分(北浦和公園内)。JR東京駅、新宿駅から北浦和駅まで、それぞれ約35分。  
※当館に専用駐車場はありませんが、提携駐車場「三井のリパーク 埼玉県立近代美術館東」では、駐車料金の割引があります(企画展観覧で300円引き、MOMASコレクション観覧で100円引き)。団体バスは事前にご相談ください。お体の不自由な方のご来館には業務用駐車場を提供いたします。ただし、台数に限りがありますので、事前にご連絡をお願いします。



発行・埼玉県立近代美術館 編集・佐伯綾希・真中博行 原稿執筆・(S.A.) 佐伯綾希 / (K.M.) 菊地真央 / (H.I.) 平野到 広報協力・JR 東日本大宮支社



ヨナタン・デ・パス/ドナート・ドゥルビーノ/パオロ・ロマッツィノ/カルラ・スコラーリ  
《プロウ》デザイン:1967年 製品化:1968年

## アート体感ワークショップ MOMAS のとびら

全プログラム事前予約制です。  
当館ホームページからお申込みください。

### 《7月のプログラム》

7月分のお申込みを6/1(水)から受け付けます。

#### ○親子クルーズ

とき・7/2(土) 13:30 ~ 15:00

対象・小・中学生+保護者 費用・500円

#### ○工房

とき・7/16(土)、7/23(土) 各日13:30 ~ 15:00

対象・小学生~大人 費用・500円

### 《8月のプログラム》

8月は、「MOMASのとびら」の夏休み拡大版「サマー・アドベンチャー」を実施します。詳細はホームページをご覧ください。

※ 開催日が複数あるプログラムは、いずれも同じ内容を実施します。複数の実施日にお申込みいただいても構いませんが、ご参加いただくのはそのうち1日のみとさせていただきます。また、応募が定員以上の場合は、抽選とさせていただきます。ご了承ください。  
※ 「親子クルーズ」は、MOMAS コレクションか企画展のどちらかに関連した活動を行います。  
※ 各プログラムの実施時間等は変更になる可能性があります。詳しくはホームページをご覧ください。

「MOMASのとびら」のページ

<https://pref.spec.ed.jp/momas/MOMASのとびら>



## 夏休み MOMAS ステーション

とき・7/16(土) ~ 8/25(木)

ところ・1階エントランスロビー

内容・夏休み限定の子供向け受付「MOMASステーション」を設置します。初めて美術館に来る子供たちや、美術館に関する宿題がある子供たちに、美術館を楽しむためのワークシートや参考になる資料を提供したり、研修を受けたボランティアスタッフが相談に応じたりします。お気軽にご利用ください。

## 一般展示室 ( 地階 )

※ 日程・内容は変更される場合があります。当館ホームページで最新内容をお知らせしています。

※ 展示により開室時間(特に最終日の終了時刻)が異なります。

### ◆6/1(水)~6/23(木)

第70回埼玉県美術展覧会(県展)……………一般展示室ほか

### ◆7/5(火)~7/10(日)

第41回埼玉県高等学校写真連盟写真展……………一般展示室1  
第27回基の会展……………一般展示室2  
思い出の作品展(若柳佳子)……………一般展示室4

### ◆7/12(火)~7/17(日)

第20回埼玉独立展……………一般展示室1~3  
第1回エスポワール絵画展……………一般展示室4

### ◆7/19(火)~7/24(日)

第48回埼玉二紀展……………一般展示室1~4

### ◆7/26(火)~7/31(日)

春翔、信龍、光風 三人展/第16回書<縁en>展……………一般展示室1~4

MOMASコレクション第1期

## 特集 孫雅由の小宇宙

ここに《甲虫》と題する小さな銅版画があります。先端が尖った針(ニードル)で銅板を引っかけて描画し、版画にした作品です。何かの輪郭をかたどるような線や蠢く生物の繊毛のような線が、絡み合ったりほぐれたりしながら、どこかアンフォルメル先駆者ヴォルスを彷彿とさせる謎めいた世界が表されています。画面からは奇妙な有機的イメージが漠然と浮かび上がってくる一方、そのイメージが崩壊し画面の中に溶解していくようにも見えます。作者が内に秘めて抱えるイメージなのか、それとも線描によって無意識に出現したイメージなのかの区別も曖昧で、不可思議かつ神秘的な印象を醸し出しています。



孫雅由《甲虫》1978年

作者の孫雅由(1949-2002)は、関西を拠点に活動した美術家です。在日韓国人二世として大阪に生まれた孫は美術家を志し、1966年17歳で上京し、すいどーばた美術学院で油絵を学びます。1968年に多摩美術大学に入学した後、自主退学していますが、上京して出会った美術家の高山登から教えを受け、1960年代末には高山が制作場所としていた屋外の空地「戸塚スペース」で活動を始めます。当初は、「戸塚スペース」の風景や高山が制作に用いた枕木を題材にした身体表現を試みていましたが、次第に実験的な映像作品にも挑戦していきます。

こうした模索期を経て、孫が本格的に版画、ドローイング、油彩画などの絵画に取り組むようになったのは、関西に戻った1976年以降です。冒頭で紹介したような銅版画と並行し、実験的なドローイングにも取り組んでいます。最初は線を主体としたドローイングでしたが、1980年代後半になると、色彩が主要なテーマになります。例えば《WS 86-40》では、色彩を対比させつつ不定形な小さな色の形を驚くほど丹念に集積し、モザイク状の画面を構成しています。それはまるで、ひとつひとつの色の声に耳を傾け、あるべき色の姿を生成しているかのようです。孫は、「色は何処までも色とし



孫雅由《WS 86-40》1986年

て強く、色は色として何処までも弱く、色はあらゆる物の中に奥深く沈む」、「色がただ単に色彩として有るのでは無く、色が本来の位置、神に近づく道を見出すならば、我々も芸術家も 来たるべき時代の担い手になるであろう」という表現で色彩について語っています。つまり、孫が探求しようとしたものは、造形の深淵にある世界でした。線や色という造形表現を介して孫は、生成と消滅、見えるものと見えないもの、意識と無意識の間に潜在する根源的世界を垣間見ようとしていたと言えるでしょう。

昨年度、当館は埼玉県在住のコレクターである河正雄氏から、170点を越える孫の版画とドローイングをご寄贈いただきました。いずれの作品も孫のなかでは小品ではありますが、作者の芸術観を理解する上で貴重な作例であるとともに、1970年代以降の現代美術における稀有な実践として捉えることのできる作品群です。今回のMOMASコレクションでは、その一部を展示します。ご紹介する作品は小品であるがゆえに、作者の哲学的な思考や思索的な制作プロセスを敏感に反映しています。手のひらに載るような画面には、孫が触れようとした根源的な小宇宙が、まさに凝縮されているのです。(H.I.)

## ミュージアム・ショップおすすめ商品

"子どもがはじめて出会う図鑑"をコンセプトに、絵本作家が親しみやすいイラストで描いた動物図鑑です。極端なデフォルメは行わず、動物の特徴をしっかり描いてあり、とてもわかりやすいです。各章のはじめに、透明フィルムを使用した"しかけページ"を挿入しています。プレゼントにも最適ですよ。



はじめてずかん どうぶつ1/どうぶつ2  
はた こうしろう作  
各1,045円(税込)  
※対象年齢:3歳頃~

## zocalozocalozo 編集後記 zocalozocalozocalozocalozocalozocalozocalozo

春から新しく編集担当になりました。楽しく充実した紙面を作っていきたいです!(S.A.)

zocalozocalozocalozocalozocalozocalozocalozocalozocalozocalozocalozocalozo